

社会的成熟の評価(教師-母親)における性差について

埼玉大学教育学部 藤 尾 公 裕

(目 的)

母親の評価による社会的成熟の性差については5才6才について、すでに報告(日本保育学会29回大会・日本心理学会39回大会)したが、本研究では、母親と教師がそれぞれの立場から同一児を評価した時、男児と女児にどのような差がみられるかということについて明らかにすることを目指す。

(研究 方 法)

社会的成熟の側面を、作業能力・移動能力・意志交換能力・集団への参加・自覚性・自己統制(各20問)の6つの領域に分け、更に清潔・排泄・着衣・睡眠・食事(計10問)と基本的習慣として質問紙(社会成熟度検査)を用い、同一幼児について幼稚園教師と母親の両者に、同時に評価を求めた。

評価する時の条件として、教師には保育者の立場からできるかぎり客観的に判定し、母親には親の立場からありのままの姿について判定するように求めた。

対象児は東京都内の5,6才児141名であり、1974年6月～8月に実施した。

(結 果 と 考 察)

表によってその傾向をみていくと、作業能力と移動能力については、教師による男児・女児への評価にほとんど差はみられなく、その傾向は母親についても同様である。

しかし、意志交換能力をみると、5才0月～5才11月の、教師評価による男児間の差は10%レベルで有意差があるが、他は教師・母親ともに5%以下で有意である。いずれにしてもその特徴は教師・母親ともに男児よりも女児に高いことが指摘できる。

また集団への参加についても、教師では5才0月～6才11月にわたって男児よりも女児の評価が

高く、母親についても同様の結果である。

自主性については、教師・母親ともに男女間に有意差はみられないうが、その数値は女児が高い。

自己統制では5才0月～5才11月の母親の評価で差はないが、他はすべて女児が高い。

次に基本的習慣についてみると、清潔・排泄・着衣・睡眠については、1,2の位所で有意差があるものの、全体としては教師・母親ともに評価の差はないものと考えられる。

食事では母親による評価に性差はみられないうが教師においては5才0月～6才11月にわたって女児が高く評価されている。

ここでいう社会的成熟とは、表に示された各下位領域をすべて包含したものを意味するが、教師による評価では各年齢とも女児が高く、母親による評価ではその差はみられない。

以上のことから考えると、教師-母親による評価はとも、男児よりも女児が高く、明らかに性

教師-母親における評価の性(平均・標準偏差)

年令	評価者	作業能力		移動能力		意志交換能力		集団参加		自主性		自己統制	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5才0月	T	14.7	14.2	15.8	15.6	14.9	16.0	15.2	16.7	15.4	16.0	13.8	16.3
	S	3.0	2.8	2.3	2.2	3.4	2.9	3.5	2.3	2.2	2.0	4.1	2.9
5才11月	M	15.7	16.4	17.1	17.6	17.0	17.9	16.4	17.6	16.5	16.4	16.0	15.6
	S	2.9	3.0	1.6	1.9	2.1	1.9	2.6	2.6	2.4	2.8	2.6	3.2
6才0月	T	15.2	15.0	16.5	16.2	14.4	17.4	15.5	17.6	16.0	17.1	15.5	17.1
	S	1.8	1.9	1.6	1.8	2.7	1.7	2.9	1.9	2.3	1.8	3.0	2.3
6才11月	M	16.0	16.2	17.8	17.6	17.0	18.1	17.1	18.0	16.2	17.3	14.8	16.5
	S	3.5	3.0	1.7	1.8	2.3	1.5	2.5	1.9	3.2	3.4	3.6	3.1

年令	評価者	清潔		排泄		着衣		睡眠		食事		社会的成熟	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5才0月	T	8.4	8.6	9.1	9.0	9.9	9.9	6.9	7.1	15.9	17.5	139.9	147.0
	S	1.0	0.9	1.0	1.0	0.4	0.1	2.3	2.3	2.6	1.9	19.6	16.2
5才11月	M	9.3	9.1	9.3	9.0	9.4	9.6	8.7	8.5	17.0	16.6	152.3	154.2
	S	0.9	1.1	1.1	1.2	1.1	0.7	1.2	1.3	2.5	2.3	12.7	14.2
6才0月	T	8.6	8.9	9.4	8.9	9.8	9.8	7.5	6.8	16.8	18.1	145.2	152.9
	S	0.9	0.6	0.8	0.9	0.4	0.9	2.2	2.4	2.0	2.0	12.8	12.3
6才11月	M	8.6	9.3	9.3	9.5	9.4	9.5	8.7	8.8	16.5	17.2	151.4	157.9
	S	1.8	0.9	0.8	0.8	0.9	1.1	1.1	1.4	2.6	2.7	18.4	13.6

T-教師 M-母親

O--- $P < 5\%$; ∴--- $P < 10\%$

差があると指摘でき、その内容は意志の表現・伝達・模倣とか、集団への積極的な参加技能等の、対人関係を中心としたものであり、更に自主的判断による行動の抑制などを内容とするものである。

また、食事の習慣及び社会的成熟における評価では、母親においては性差は指摘されないが、教師ではこれらの点についても明瞭に指摘される。

(※に域を代入)